

日本語のノダに類する文末談話標識の通言語的研究：
「思考プロセス」の観点からのアプローチ
(平成 25 年度第一回研究会)

日時： 平成 25 年 5 月 11 日（土曜日）（午前 9 時より午後 6 時）
12 日（日曜日）（午前 9 時より午後 3 時半）

場所： AA 研 301 号室

報告者名： 角田三枝（AA 研共同研究員 立正大学非常勤講師）

2013 年度 第 1 回 研究会報告

参加者： 梅谷博之、海老原志穂、桐生和幸、児倉徳和、千田俊太郎、
角田太作、星泉、角田三枝

<研究会の内容>

研究発表① 大塚行誠

「現代口語ビルマの『ノダ』文に関する予備調査」

A preliminary study on nominalizer-final constructions in colloquial Burmese

研究発表② 千田俊太郎

「朝鮮語の「連體形 + *kes* + コピュラ」文: 先行研究と問題」

kes-i-ta construction in Korean: previous studies and points of controversy

調査票の検討

ノダ文に相当する文末表現を収集するための調査票として、角田三枝の作成したイラスト入り調査票の試作品を全員で検討した。また、調査票を実際に調査に使用する場合の調査方法なども検討した。

実際に調査票を使った場合の報告

大塚行誠が、調査票の試作品の一部を用いて、コンサルタントに調査を行った。その詳細について報告を行った。

各言語の用法の整理とメンバー間での共有

ノダ文に相当する文末表現の用法には、各言語において同異がある。

児倉徳和が中心となり、それぞれの形態、用法の同異をまとめてメンバー間で共有するための具体的な方法を検討した。

<今回の研究会の成果>

それぞれの言語におけるノダに相当する文の先行研究、およびこれまでに見つかっている用法などの概要がつかめてきた。

これから行う調査に向けて、実際の調査を行う場面を想定しながら、「思考プロセス」を可視化したイラスト入り調査票を全員で検討した。実際にイラスト入り調査票を使って調査したメンバーからは、被験者が興味をもって調査に参加してくれたという報告もあった。そういった実例を参考にしながら、サンプルの改良を検討した。

また、それぞれのデータを共有するための整理の方法なども検討し、充実した研究会となった。